

第3章 分析テーマⅡ 滋賀県の女性は働き方に満足しているのか～県民意識調査分析～

前章では道府県別の女性の非正規雇用率から滋賀県の特徴を分析したが、本章では「滋賀県の女性は働き方に満足しているのか」を明らかにするため、滋賀県に居住する女性に着目して分析を行う。

3-1 分析テーマについて

背景・
問題意識

- ・ 非正規雇用という雇用形態の特徴によって発生する課題について問題視している
- ・ 一方で、女性本人がその働き方を望んでいるならば、非正規雇用が必ずしも問題ではなく、本人の選択や希望を尊重することが重要である
- ・ 女性が非正規就労となる要因として、出産・子育てによる雇用形態の変化 が考えられる

分析テーマⅡ

滋賀県の女性は働き方に満足しているのか？

分析テーマⅡ-1

第一子出産・子育てを機に雇用形態が変わった女性に着目し、
第一子子育て開始後の仕事と子育ての状況に満足していたか？を分析する

分析テーマⅡ-2

現在非正規で就労している女性に着目し、
正規就労を希望しているか？を分析する

(1) 女性の働き方に関する課題の整理

1-4で述べたとおり、非正規雇用には課題がある一方で、女性が自ら望んで非正規就労を選択していることも考えられ、重要なのは、女性がどのような働き方を望んでいるかということであると考えられる。

そのため、出産・子育てが女性の就労に変化を与える大きな要因であると考えられることから、子育てを経験した女性が、「出産・子育てをしていた時期」と「現在」と、2つの時点において、仕事と子育ての状況について満足していたかを分析する。

(2) 分析テーマの設定

(1) から、2つの分析テーマを設定した。

◎分析テーマⅡ-1：子育て開始時における仕事と子育ての状況に係る満足度

第一子出産・子育てを機とした仕事の状況（雇用形態の変化）が「仕事と子育てに満足していたか」にどのように関係しているかを明らかにする。特に、出産・子育てを機に正規

雇用を辞めた場合や、正規雇用離職後に非正規雇用で再就労した場合に着目し、正規就労を継続した場合と非正規雇用以外で再就労した場合との満足度の違いを比較する。

なお、ここでの「当時の（第一子の子育てと仕事の状況についての）満足度」は、回答者が第一子の子育てや仕事の状況について懐古的に振り返ったときの満足度である場合がある。

◎分析テーマⅡ－２：現在非正規就労をしている女性の正規就労の希望

現在、非正規雇用の女性が「正規雇用を希望しているか」について、子育ての経験がある女性に着目して、年齢や学歴、出産・子育て時の雇用形態がどのように関係しているかを明らかにする。

ただし、「出産・育児」から「現在」の期間は回答者によって異なり、調査の設計上厳密な算出が困難であることから、本分析ではこの点を考慮していない。

3-2 分析に用いたデータ・分析手法

3-2-1 分析に用いたデータ

分析には、令和6年度に女性活躍推進課が実施した「男女共同参画社会づくりに向けた県民意識調査（5-2を参照）」の結果を用いる。

以下は、分析に用いた設問である。なお、分析に利用する際の項目の定義は赤字で示している。

◎分析テーマ「Ⅱ-1：子育て開始時における仕事と子育ての状況に係る満足度」

以下の問23付2は、3-3で目的変数として扱う。

【第一子の子育てと仕事の状況に対する満足度】問23付2

付問2 問23でお答えいただいた当時の子育てと仕事の状況について、当時のあなたは、どの程度満足していましたか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

1 満足していた	} →	【満足】
2 どちらかといえば満足していた		
3 どちらかといえば不満だった	} →	【不満】
4 不満だった		

以下の問2、問6、問22および問23は、3-3-2で説明変数として扱う。

【年齢】問2

問2 あなたの年齢は満でいくつですか。(○は1つだけ)

1 18~19歳	2 20~24歳	3 25~29歳	4 30~34歳
5 35~39歳	6 40~44歳	7 45~49歳	8 50~54歳
9 55~59歳	10 60~64歳	11 65~69歳	12 70歳以上

【学歴】問6

問6 最終卒業学校または現在在学している学校は次の中のどれに当たりますか。(○は1つだけ)

1 小学・中学	2 高校・旧制中	3 専門学校
4 短大	5 高専	6 大学
7 大学院(修士)	8 大学院(専門職)	9 大学院(博士)

【第一子出産時（前）の職業（従業上の地位）】問 22

■ 「子育て中の女性」または「子育てのご経験がある女性」へおたずねします。(問22・問 23)
 その他の方は、問 24へお進みください。

問22 第一子のお子さんが生まれた時の、あなたの主なご職業は次のどれに当たりますか。あてはまるものの番号を1つだけ選んでください。当時、出産や子育てをきっかけにお仕事をやめた方は、やめた職業を選んでください。

- | | |
|--|-----------------------|
| 1 勤め人(正規の職員・従業員、会社などの役員) | →【正規】 |
| 2 勤め人(非正規の職員・従業員(パート・アルバイト・派遣等)) | →【非正規】 |
| 3 農林漁業 | 4 会社経営者、自営業主(農林漁業を除く) |
| 5 家族従業者(農家や会社など自営業主の家族で、その自営業に従事している方) | |
| 6 その他の有職 | →【その他】 |

問22が無回答かつ問23が1~8 →【無職】

【第一子子育て開始後の仕事の状況（従業上の地位）】問 23

問23 第一子のお子さんの子育てを始めたことで、あなたの仕事はどうになりましたか。あてはまるものの番号を1つだけ選んでください。

- | | |
|--|---------|
| 1 子育てをしながら、仕事を続けた(育児休業を利用して仕事を続ける場合を含む。) | →問22と同じ |
| 2 仕事を一時やめ、その後、フルタイム(正規の職員・従業員)の職に就いた | →【正規】 |
| 3 仕事を一時やめ、その後、フルタイム(非正規の職員・従業員)の職に就いた | |
| 4 仕事を一時やめ、その後、パートタイム(正規の職員・従業員)の職に就いた | →【非正規】 |
| 5 仕事を一時やめ、その後、パートタイム(非正規の職員・従業員)の職に就いた | |
| 6 仕事を一時やめ、その後、自営業の職に就いた | →【その他】 |
| 7 子育てを始めてから、仕事を持っていない | →【無職】 |
| 8 結婚後、仕事を持っていない | |
| 9 その他() | |

【第一子子育て開始後の仕事の状況（継続就労の有無）】問 23

問23 第一子のお子さんの子育てを始めたことで、あなたの仕事はどうになりましたか。あてはまるものの番号を1つだけ選んでください。

- | | |
|--|-------|
| 1 子育てをしながら、仕事を続けた(育児休業を利用して仕事を続ける場合を含む。) | →【継続】 |
| 2 仕事を一時やめ、その後、フルタイム(正規の職員・従業員)の職に就いた | →【辞職】 |
| 3 仕事を一時やめ、その後、フルタイム(非正規の職員・従業員)の職に就いた | |
| 4 仕事を一時やめ、その後、パートタイム(正規の職員・従業員)の職に就いた | |
| 5 仕事を一時やめ、その後、パートタイム(非正規の職員・従業員)の職に就いた | |
| 6 仕事を一時やめ、その後、自営業の職に就いた | |
| 7 子育てを始めてから、仕事を持っていない | →【無職】 |
| 8 結婚後、仕事を持っていない | |
| 9 その他() | |

以下の問 23 付 1 は、3 - 3 - 3 で説明変数として扱う。

【第一子の子育てを機に仕事をやめた理由】 問 23 付 1

付問1 問23で「2」～「5」と回答をされた方におたずねします。

第一子のお子さんの子育てを始めたことで、仕事をやめた理由は次のどれに当たりますか。あてはまるものの番号をすべて選んでください。

- | |
|--|
| 1 通勤時間や転勤の問題で仕事を続けるのが難しかったため |
| 2 勤務先に育児との両立に対する理解や両立支援制度が不十分だったため |
| 3 妊娠・出産前と比べて、仕事の内容や責任等について、やりがいを感じられなくなった(なりそうだった)ため |
| 4 配偶者(パートナー)のみで十分な収入が得られるため |
| 5 家事、育児について、配偶者(パートナー)等家族の協力が得られなかったため |
| 6 働くことに配偶者(パートナー)等家族の同意が得られなかったため |
| 7 仕事と家事、育児の両立をこなす自信がなかったため |
| 8 保育施設や保育サービスが利用できなさそうだった(利用できなかった)ため |
| 9 子どもが放課後過ごす場所が確保できなさそうだった(できなかった)ため |
| 10 家事・育児に専念したかったため |
| 11 その他() |
| 12 特に理由はない、わからない |

◎分析テーマ「Ⅱ-1：子育て開始時における仕事と子育ての状況に係る満足度」

3 - 4 では、以下の問 4 が【非正規】である者に分析対象を限定する。

【現在の職業】 問 4

問4 あなたのご職業は次の中のどれに当たりますか。(○は1つだけ)

- | | | | |
|---|-----------------------|-------------|------|
| 1 勤め人(正規の職員・従業員、会社などの役員) →【正規】 | | | |
| 2 勤め人(非正規の職員・従業員(パート・アルバイト・派遣等)) →【非正規】 | | | |
| 3 農林漁業 →【その他】 | 4 会社経営者、自営業主(農林漁業を除く) | | |
| 5 家族従業者(農家や会社など自営業主の家族で、その自営業に従事している方) | | | |
| 6 その他の有職 →【その他】 | 7 家事専業 | 8 学生 →【その他】 | 9 無職 |
- ↓
【無職、家事専業】

以下の問 24 は、3 - 4 で目的変数として扱う。

【現在の正規就労希望有無】 問 24

■ ご職業が勤め人(非正規の職員・従業員(パート・アルバイト・派遣等))の方へおたずねします。

(問 24 のみ) 其他のご職業で、男性の方は問 25 へ、其他の方は問 26 へお進みください。

問 24 正規の会社員・職員・従業員として働くことができるのであれば、働くことを希望しますか。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------|------------|
| 1 希望する | } → 【希望する】 |
| 2 条件が合えば希望する | |
| 3 希望しない | |

以下の問 2、問 6、問 22 および問 23 は、分析テーマⅡ－1 と同様の定義で、3－4－2 で説明変数として扱う。

【年齢】問 2

【学歴】問 6

【第一子出産時（前）の職業（従業上の地位）】問 22

【第一子子育て開始後の仕事の状況（従業上の地位）】問 23

以下の問 24 付 1 は、3－5－3 で説明変数として扱う。

【現在正規で就労していない理由】問 24 付 1

付問1 問24 で「1」または「2」と回答をされた方へおたずねします。

現在、正規の会社員・職員・従業員として働いていない理由について、あてはまるものの番号をすべて選んでください。

- | | |
|----|---|
| 1 | 妊娠・家事・育児・介護等家庭の事情で、フルタイムや残業、休日出勤などの働き方が難しいため |
| 2 | 家庭の事情以外の理由で、フルタイムや残業、休日出勤などの働き方が難しいため |
| 3 | 働いている(または働いていた)職場で正規の会社員・職員・従業員になりたかったが、制度がなかった、または断られたため |
| 4 | 配偶者(パートナー)等家族が正社員で働くことに肯定的でないため |
| 5 | 家事、育児や介護・看護について、配偶者(パートナー)等家族の協力が得られないため |
| 6 | 正規の会社員・職員・従業員の仕事に自分でもできる仕事があるか自信がないため |
| 7 | 社会保険料や配偶者控除を考えて収入を抑えたいため(扶養の範囲内で働きたいため) |
| 8 | 保育施設や保育サービスが利用できないため |
| 9 | 介護・看護の施設やサービスが利用できないため |
| 10 | 子どもが放課後過ごす場所が確保できないため |
| 11 | 転職活動をしたが採用されなかったため、または採用されなさそうであるため |
| 12 | その他() |
| 13 | 正規の会社員・職員・従業員での就職に向け、現在転職活動中である |

3－2－2 分析手法

本章では、データの比較において誤差ではなく統計的に意味があるかを確認する「統計的有意差」の検定を行って評価する。

詳細については 3－5－1 を参照。

3-3 分析テーマⅡ-1：子育て開始時における仕事と子育ての状況に係る満足度

問 23 付 2 【第一子の子育てと仕事の状況に対する満足度】およびその他の設問（年齢、学歴、当時の仕事の状況、雇用形態の変化等）をもとに、第一子の子育てと仕事の状況に対する当時の満足度を明らかにする。

3-3-1 どのくらいの人が満足していたか

図 3-3-1 は、子育て経験がある女性（226 人）が第一子子育て開始後の仕事と子育ての状況に満足していたか（問 23 付 2）について、3-2-1 で示すカテゴリの合併前のデータについて集計した結果を示す。

「満足」および「どちらかといえば満足」を合わせた 65.0% が第一子の子育て開始後の状況について満足していたことが分かった。

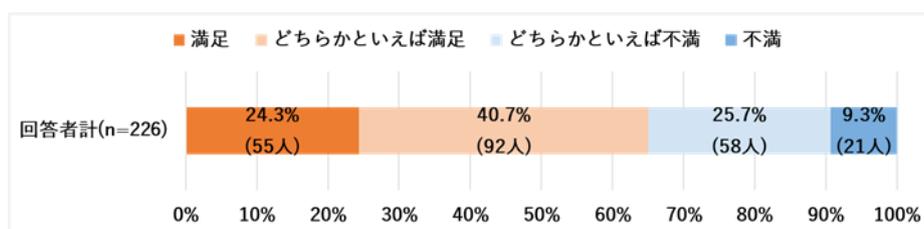


図 3-3-1 第一子子育て開始後の仕事と子育ての状況についての満足度（問 23 付 2）

3-3-2 満足度に関係する要因はなにか

3-3-1 の結果をもとに、年齢や学歴、第一子の出産前後の仕事の状況、雇用形態の変化等が満足度と関係しているかを分析していく。

(1) 年齢（問 2）および学歴（問 6）

年齢、学歴の違いによる満足度について、年齢は 5 歳階級別（ただし 30 歳未満は回答者が少ないため 18~29 歳とする）、学歴は 3 つの区分により分析した。その結果、年齢に

よる差（ $p=0.473$ ）および学歴による差（ $p=0.970$ ）はいずれも有意な差ではなかった。

ただし、この設問は懐古的な質問項目である場合があり、正確性に疑義があることが否めないほか、第一子の子育て時から回答時点までの期間（時間の長さ）は回答者によって異なっている。

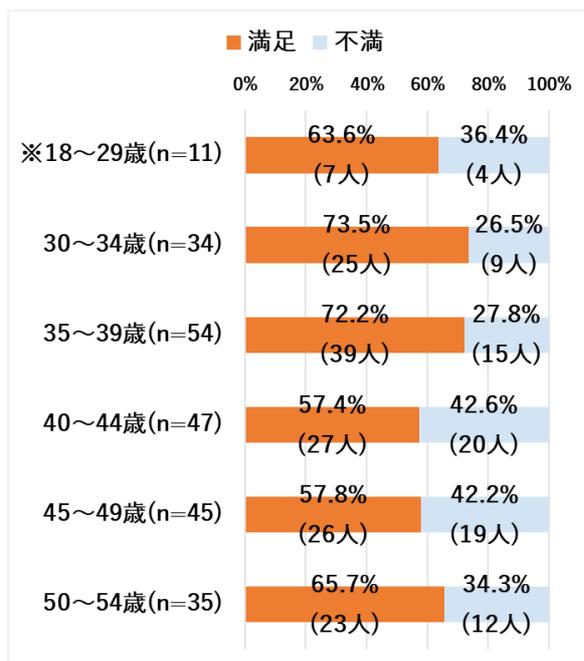


図 3-3-2 年齢階級別 満足度（ $n=226$ ）（問 2 × 問 23 付 2）

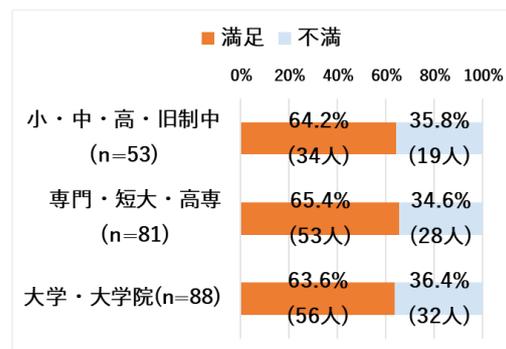


図 3-3-3 学歴別 満足度（ $n=222$ ）（問 6 × 問 23 付 2）

(2) 第一子出産時（前）の職業（従業上の地位）（問 22）と子育て開始後の仕事の状況（問 23）

次に、第一子出産時（前）の職業（従業上の地位）と子育て開始後の職業の違いによる満足度について分析した。ここでは特に、第一子出産時（前）に正規就労をしていたが、子育て開始後に正規を辞め非正規で就労した人（表 3-3-1 のマーカー付きセル）の満足度に注目し、その他の場合と比べて満足度に違いがあるのかを把握する。

表 3-3-1 のとおり、赤枠内における満足度について、いずれも有意な差はなかった (p=0.477)。

このことから、子育て開始前後の従業上の地位の変化によって、満足度に差があるとは言えないという結果となった。

表 3-3-1 第一子の子育てと仕事の状況に対する満足度

	第一子子育て開始後の従業上の地位【問23】				総計
	正規	非正規	無職	その他	
第一子出産時(前)の従業上の地位【問22】	正規	70.6%(17)	75.0%(16)	40.0%(5)	66.7%(126)
	非正規	64.3%(14)	66.7%(15)	-	66.7%(63)
	無職	33.3%(3)	100.0%(9)	50.0%(4)	77.8%(18)
	その他	0.0%(1)	0.0%(2)	41.7%(12)	36.8%(19)
	総計	65.7%(105)	64.3%(56)	75.0%(44)	65.0%(226)

(3) 第一子出産時(前)の従業上の地位(問22)が正規だった人の子育て開始後の仕事の状況(問23)

(2)のうち、出産時(前)に正規就労していた人(126人)に着目し、その後の雇用形態の変化による満足度について分析した結果は、以下の4点である。

- ① 非正規雇用で再就労した人は、70.6%が満足していた。
- ② ①の満足度は、正規雇用で再就労した人の満足度(65.3%)よりも高いが、有意ではなかった。(p=0.925)
- ③ 子育て開始後も正規の職を継続した人は、65.3%が満足していた。
- ④ ③の満足度は、出産前または子育て開始後に正規を辞職した人の満足度(69.2%)よりも低い

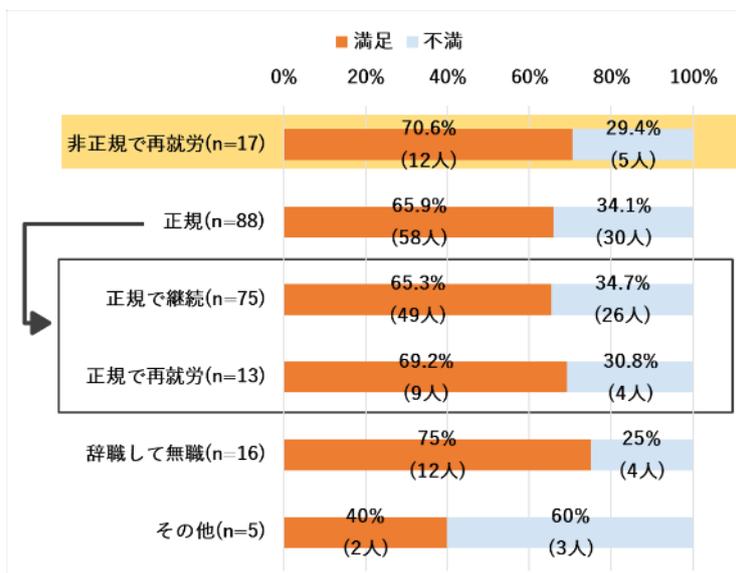


図 3-3-4 出産時(前)に正規就労していた人の子育て開始後の仕事の状況別 満足度 (n=126)

が、有意ではなかった。

($p=1.000$)

以上の結果から、出産時（前）に正規雇用で働いていた人の、その後の雇用形態の変化による満足度について、どの雇用形態でも有意な違いはないことがわかった。

しかし、正規での就労を継続できるかどうか、または、継続（または辞職）したいと思うかどうかは、年齢や学歴等の属性と関係している可能性があり、満足度にも影響すると考えられる。

そのため、出産時（前）に正規就労していた人について年齢や学歴で区分したうえで、子育て開始後の就労の継続状況による満足度についても分析を行った。

（４）出産時（前）に正規就労していた人の就労継続有無（問 23）・年齢階級（問 2）

年齢階級別にみた就労の継続状況による満足度は、どの年齢階級においても、就労継続と辞職とで満足度の差は有意ではなかった。

（表 3-3-2）

ただし、図 3-3-5 から以下①～②のような傾向が読み取れる。

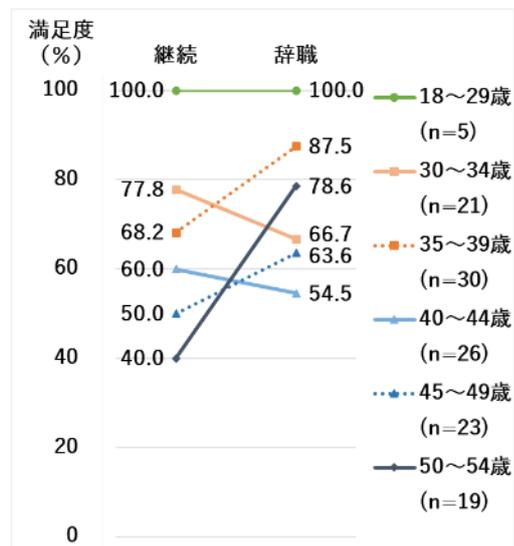


図 3-3-5 年齢階級別・正規継続有無別 満足度 (n=124)

① 正規就労を継続した人の満足度は、年齢が低いほど高い傾向がみられた。つまり、若い世代の方が、仕事を続けることに対して満足している割合が高い。

② 正規就労を継続した人と辞職した人のどちらの満足度が高いかは、年齢階級によって異なっており、明確な傾向はみられなかった。

なお、年齢と正規就労の継続状況との関係については、年齢が低いと正規就労を継続した割合が高く、年齢が高くなるほど、正規を辞めた割合が高くなる傾向がみられた。(図 3-3-6)

表 3-3-2 年齢階級別・正規継続有無別 満足度の差と検定結果

年齢階級	満足度の差 (継続-辞職)	p値
18~29歳	0.0%	-
30~34歳	11.1%	1.000
35~39歳	-19.3%	0.391
40~44歳	5.5%	1.000
45~49歳	-13.6%	0.680
50~54歳	-38.6%	0.262

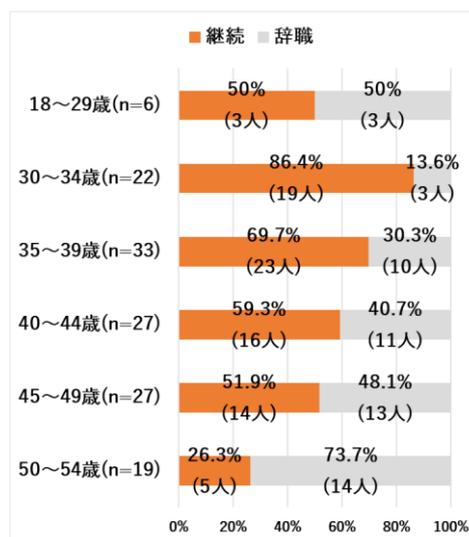


図 3-3-6 年齢階級別・正規継続有無 (n=134 (問 23 無回答を含む))

(5) 出産時(前)に正規就労していた人の就労継続有無(問 23)・学歴(問 6)

学歴ごとに、正規就労の継続状況で満足度を比較した結果、どの学歴においても、就労の継続と辞職とで、満足度の差は有意ではなかった。(表 3-3-3)

ただし、図 3-3-7 から以下①～②のような傾向が読み取れる。

- ① 大学・大学院卒は、継続した人の満足度が辞職した人の満足度よりも高い。
- ② 専門・短大・高専卒は、継続した人の満足度が辞職した人の満足度よりも低い。

なお、学歴と正規就労の継続状況との関係については、大学・大学院卒は他の学歴区分に比べて、正規就労を継続した割合が有意に高かった。(p=0.002) (図 3-3-8)

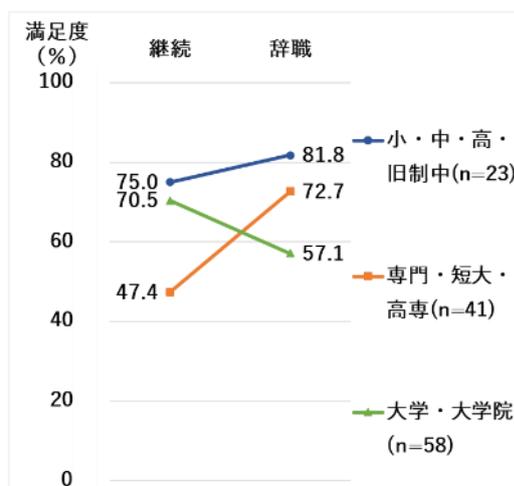


図 3-3-7 学歴別・正規継続有無別満足度 (n=122)

表 3-3-3 学歴別・正規継続有無別満足度の差と検定結果

学歴	満足度の差 (継続-辞職)	p値
小・中・高・旧制中	-6.8%	1.000
専門・短大・高専	-25.4%	0.181
大学・大学院	13.3%	0.514

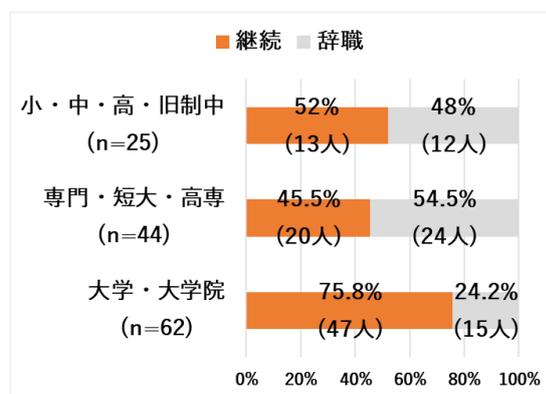


図 3-3-8 学歴別・正規継続有無 (n=131)

(6) 出産時(前)に仕事をやめた人の辞職理由 (問 23 付 1)

前項では、出産時(前)に正規就労していた人に着目し、雇用形態の変化や属性による満足度について分析したが、本項では、出産時(前)に仕事をやめた人(78人)に着目し、辞職理由による満足度を比較した。

その結果、「家事・育児に専念したかったため (⑩)」を辞職理由として選択した人は、当該選択肢を選択していない人に比べて、満足度が有意に高いことが分かった ($p=0.004$)。なお、他の辞職理由については、選択の有無による満足度の差はいずれも有意ではなかった。

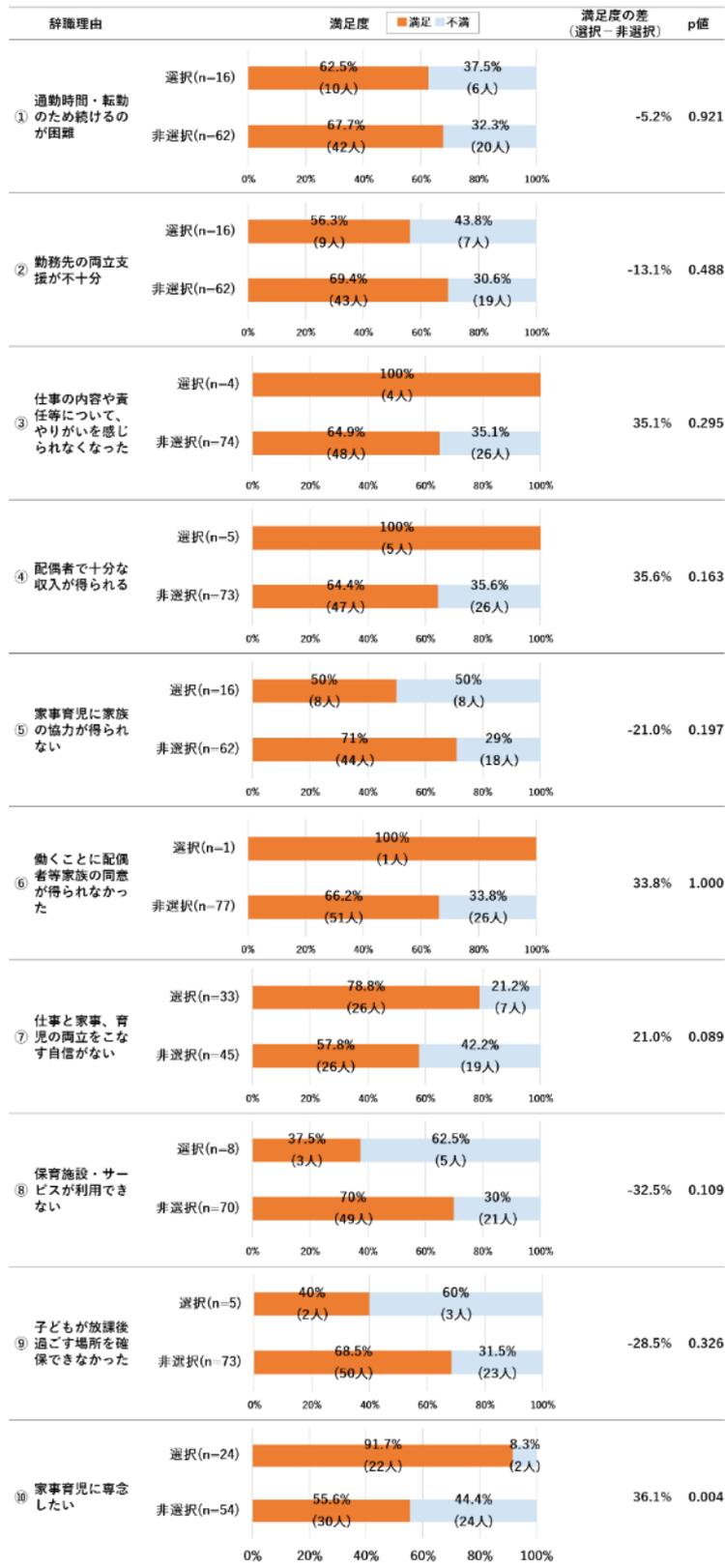


図 3-3-9 出産時（前）に仕事をやめた人の辞職理由別 満足度の差と検定結果（n=78）

3-3-3 結果のまとめ

本節では、第一子の子育てと仕事の状況に係る当時の満足度について、属性や子育て開始後の雇用形態の変化等に注目して分析を行った。

その結果、以下のことが明らかになった。

- ① 全体として、65.0%の人が、第一子子育て開始後の仕事と子育ての状況に満足していた
- ② 第一子出産時（前）と子育て開始後の雇用形態の変化によって満足度に有意な差はなかった
- ③ 第一子出産時（前）に正規就労していた人について、継続したか辞職したかによって満足度に有意な差はなかった
- ④ 第一子出産時（前）に正規就労していた人を年齢や学歴別に区分したとき、どの年齢階級・学歴においても、正規就労を続けたか辞めたかによって満足度に有意な差はなかった
- ⑤ 第1子出産時（前）に仕事を辞めた人のうち、辞職理由として「家事・育児に専念したい」を選択した人は、選択していない人に比べて満足度が有意に高かった

3-4 分析テーマⅡ-2：現在非正規就労をしている女性の正規就労の希望

ここでは、問 24【現在の正規就労希望有無】およびその他の設問（年齢、学歴、子育て当時の雇用形態等）をもとに、現在非正規就労をしている女性が正規での就労を希望しているかを明らかにする。

3-4-1 どのくらいの人が正規を希望しているか

図 3-4-1 は、現在非正規就労をしている女性の正規就労希望（問 24）について、3-2-1 で示すカテゴリの合併前のデータについて集計した結果を示す。

現在非正規就労をしている女性（127 人）のうち、81.9%の人が正規での就労を希望していることが分かった。

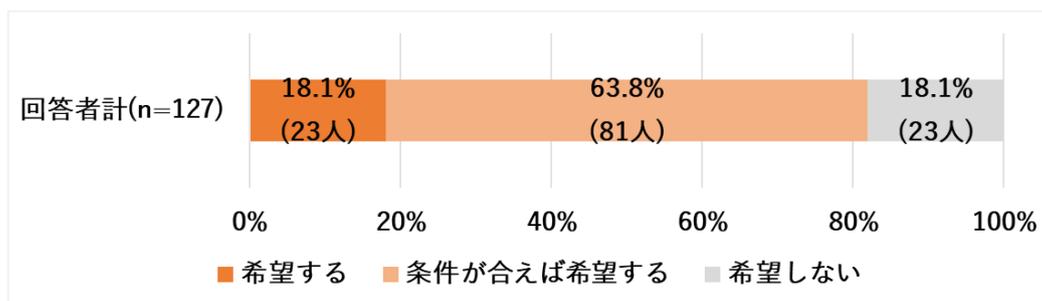


図 3-4-1 現在非正規就労している女性の正規就労希望の有無

3-4-2 どのような人が正規就労を希望しているか

本節では、現在非正規で就労している女性（127 人）のうち、出産・子育ての経験がある女性（n=88 人）に着目し、年齢や学歴、出産前後における正規就労の経験の有無等が正規就労の希望と関係しているかを分析していく。

(1) 年齢（問 2）および学歴（問 6）

年齢、学歴による正規就労希望割合についての分析結果は以下のとおりである。

年齢5歳階級別にみると、44歳までは年齢が高い人ほど正規就労を希望する割合が高い傾向がみられるが、年齢階級による差は有意ではなかった。(p=0.059)

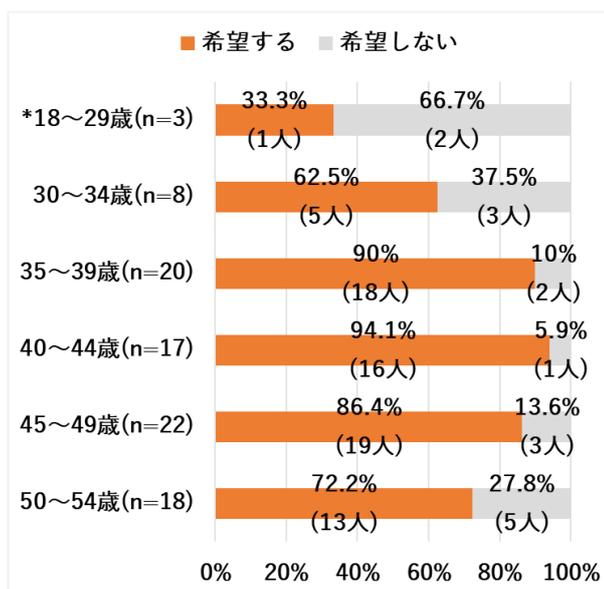


図 3-4-2 年齢階級別 正規就労希望 (n=88) (問2×問24)

次に、学歴別にみると、大学・大学院卒は、それ以外に比べて正規就労を希望する割合が高いが、学歴による差は有意ではなかった。(p=0.714)

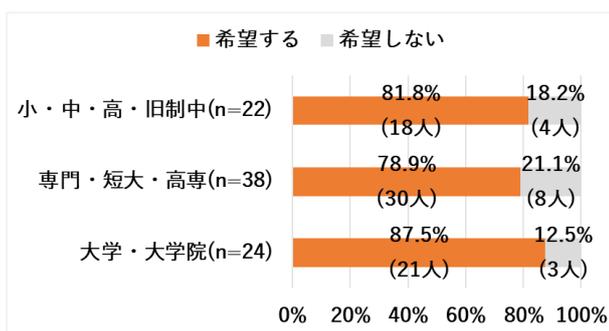


図 3-4-3 学歴別 正規就労希望 (n=84) (問6×問24)

(2) 子育て開始前後の従業上の地位 (問22、問23)

次に、子育て開始前後に正規就労をしていたかによる正規就労希望割合について分析した。なお、子育て開始前後の従業上の地位については、表 3-4-1 のとおりに分類する。

表 3-4-1 出産時(前) および子育て開始後の従業上の地位の分類

【問22】 出産時	【問23】 子育て開始時	回答者数	分類
正規	正規	18	正規
	非正規	13	
	無職・その他	8	
非正規	正規	11	正規以外
	非正規	23	
	無職・その他	3	
無職・その他	正規	2	正規
	非正規	2	正規以外
	無職・その他	8	
88			52

図 3-4-4 は、子育て開始前後の従業上の地位別に、正規就労希望について、3-2-1 で示すカテゴリの合併前のデータについて集計した結果を示す。

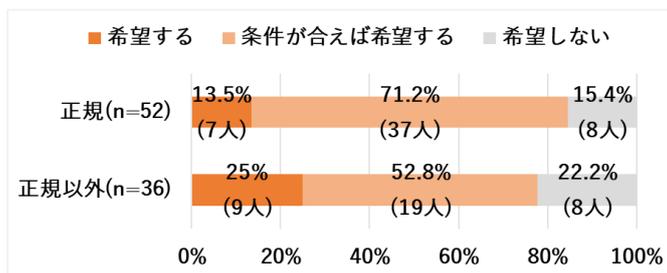


図 3-4-4 子育て開始前後の従業上の地位別正規就労希望 (n=88) (問 22、23×問 24)

子育て開始前後に正規であった人のうち正規就労を希望する人の割合 (77.8%) は、そうでない人の場合 (84.6%) と比べて 6.8 ポイント高いが、その差は有意でなかった。

(p=0.592)

なお、子育て開始前後の従業上の地位について、年齢や学歴の偏りは生じていなかった。(3-5-2 参照)

3-4-3 結果のまとめ

本節では、子育てを経験した女性を対象に、年齢や学歴、出産前後に正規で就労をしていたか等が、現在における正規就労の希望に関するかを分析した。

その結果、以下のようなことが分かった。

- ① 現在非正規で就労している女性のうち、81.9%の人が現在正規就労を希望している
- ② 5歳階級別では44歳までは年齢が高くなるほど正規就労を希望する人の割合が高くなっていることが読み取れるものの、年齢階級間の差は有意ではなかった
- ③ 大学・大学院卒の人はそれ以外の人と比べて正規就労を希望する割合が高いが、その差は有意でなかった
- ④ 第一子の子育て開始前後に正規で就労していたかどうかは、現在正規就労を希望するかどうかに関係があるとは言えない

3-5 参考

3-5-1 分析手法について

統計的有意差とは、観察された差が偶然のばらつきでは説明できない程度に大きいことを示すものである。一般的に、 p 値（ある群と比較対象群に差がないという仮説のもとで、観測された差が偶然発生する確率）を用いて表され、 $p < 0.05$ （5%未満）であれば偶然では説明しにくい差があると考えられる。本章でも、 $p < 0.05$ となる場合に「統計的に有意な差がある」とする。

(1) カイ二乗検定¹⁷

統計的有意差の検定手法として、「カイ二乗検定」を基本的に使用する。カイ二乗検定では、2つのグループ（群）のデータのばらつきの違いについて、理論上同じか、同じでないかを、ある群と比較対象群に差がなかった場合に理論上期待される値である「期待度数」を用いて調べる。また、カイ二乗検定の結果を示す場合は連続性の修正を行った。

カイ二乗検定では、3群以上の比較において、いずれかの群間に有意な差があれば、全体として「有意差あり」と判断する。つまり、カイ二乗検定の結果が有意でない場合、どの群間においても統計的に有意な差はないとみなせる。

(2) フィッシャーの正確検定

しかし、カイ二乗検定はサンプルサイズが小さい場合に用いることが不適切であり、その場合は「フィッシャーの正確検定」を使用する。

具体的に本章では、期待度数が5未満のセルが20%以上含まれる場合や期待度数が0のセルが含まれる場合には、フィッシャーの正確検定の結果を示すこととする。

¹⁷ 金城俊哉(2017)『R 統計解析パーフェクトマスター』秀和システム

3-5-2 属性別 子育て開始前後の従業上の地位

子育て開始前後の雇用形態が年齢や学歴によって偏りがないかを確認する。これは、正規就労を希望する人の割合を比較する際に影響を及ぼす可能性があるためである。

その結果、子育て開始前後に正規雇用であったかどうかについて、年齢による差 ($p = 0.266$) および学歴による差 ($p = 0.234$) がいずれも有意ではなかった。ただし、専門学校・短大・高専卒の人は、それ以外の人に比べて、子育て開始前後に正規就労していた割合が高い傾向が見られる。

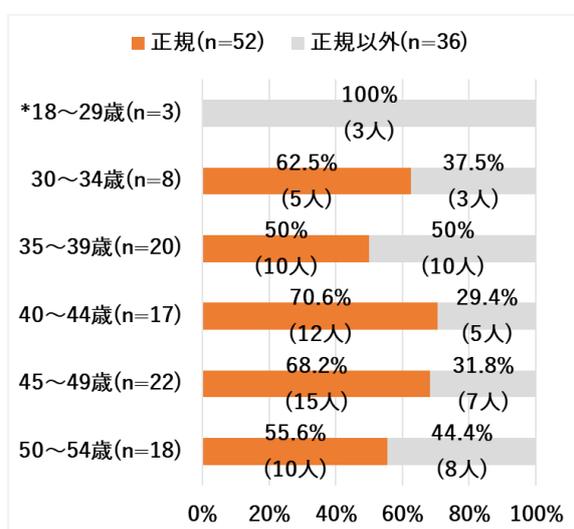


図 3-5-1 年齢階級別 出産・子育て時の従業上の地位 (n=88) (問2×問22、23)

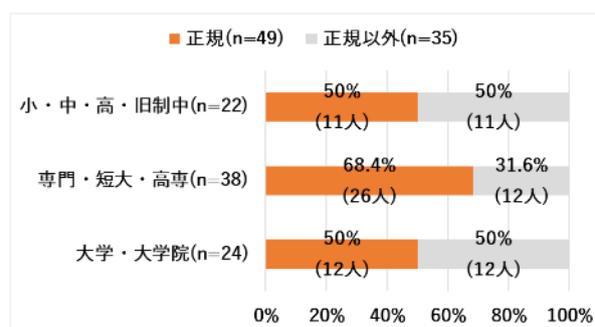


図 3-5-2 学歴別 出産・子育て時の従業上の地位 (n=84) (問2×問22、23)

3-5-3 正規を希望しながら正規就労していない理由

正規就労を希望している人が現在正規で就労をしていない理由について、問24付1の回答者 (72人) の回答割合を見た結果が図 3-5-3 のとおりである。

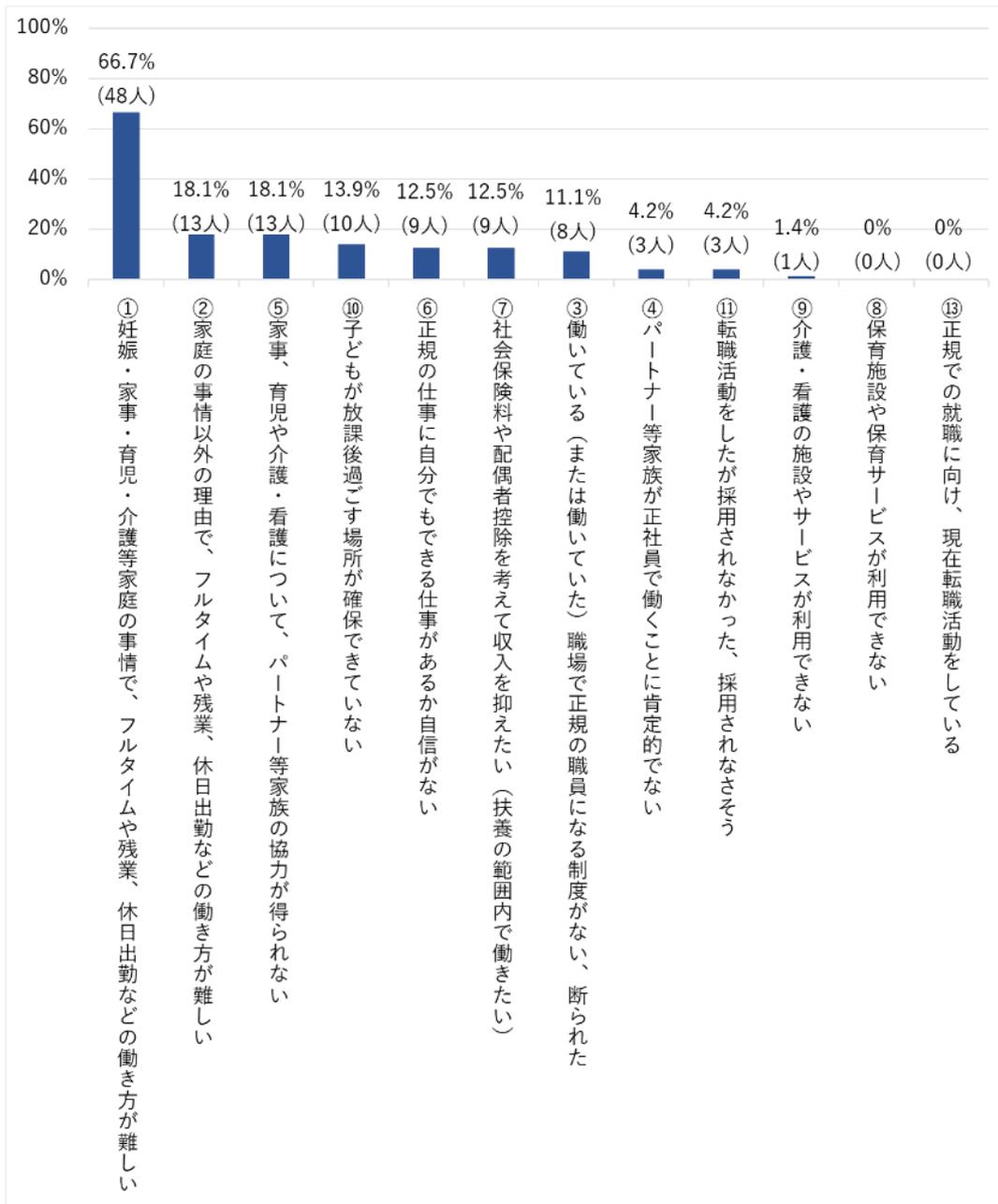


図 3-5-3 現在正規で就労していない理由（n=72）（問 24 付 1）

結果を見たところ、66.7%が「家庭の事情で、フルタイムや残業、休日出勤などの働き方が難しい」ため、正規で働いていないことが分かった。